指導者用答え

Q1. 御池に流れ込む川はあったかな？
御池の水はどこからやって来るか考えてみよう。

周辺を観察したり地図を確認したりすると、御池に流れ込む川はないことが分かります。キャンプ場の脇に沢がありますが、普段は枯れています。過剰な雨が降った際に土石とともに水が流入するのみ。つまり、普段はここから水が湖に流れ込むことはありません。にもかかわらず、湖の水は枯れないし、水位も下がりません。

要するに、御池の湖水は川から供給されているのではありません。湖水は地下水。噴火で火口が開いたために、地面の下の地下水面が露出しています。地下水面の高さは基本的に変わらないので、雨が少ない時期でも湖水が枯れることがありません（雨の多い梅雨時期などには水位が高くなることがあります）。

地表での水の出入りがないということは、地下から常に水が供給されていることが分かります。

MEMO

2026年5月発行
編集：霧島ジオパーク教育教材制作委員会

このパンフレットで紹介した場所は地域の宝物です。
大事に受け継いでいきましょう。
訪れる際は安全に気を付けましょう。

霧島ジオパーク
07

指導者用

御池周辺

みやざきけんたかはるちょう みやこのじょうし
（宮崎県高原町、都城市）

御池の自然を探検しよう

霧島ジオパーク公式キャラクター
≪キリッチ≫

※ABC という表記は順序を示すものではありません。

A 御鉢（おはち）、高千穂峰（たかちほのみね）、二子石（ふたごいし）

（霧島ジオパークHP）

御鉢は約1500年前から活動を始めた成層火山です。山頂には直径約500m、深さ約200mの火口があります。高千穂峰は天孫降臨伝説があり、とがった山頂は、溶岩が火口を埋め立ててできた溶岩ドームです。山頂には天の逆鉾があります。

空中写真では３つの山が重なっていることが分かる一方、御池湖畔から見える山は二子石だけです。二子石の頂上の先に高千穂峰の山頂部がわずかに見えます。御鉢は湖畔からは見えません。

二子石の山の中央部に大きな谷がある（崩れている）ことなど、山の形にささまざまな着眼点があります。湖を取り囲む崖の地形（火口壁）に気付く生徒・児童もいるかもしれません。新燃岳は見えませんが、その噴煙や噴気が見える場合があります。

注意！ 子どもたちは「二子石」と言ってもピンと来ないかもしれません。山を見て「高千穂峰」と言っても構わないと思います（広い意味では高千穂峰と言える）。山の名前を覚えることが本質ではありません。それよりも、山の形などの特徴に気付いたり、形の不思議などに興味を持ったりすることが重要です。

狭野神楽（さのかぐら）（国指定重要無形民俗文化財）

延宝2年(1674)には、古文書の中に「神楽三十二番」「社家」などの記述が見られることから、江戸時代初頭には、すでに神楽を実施できる社家組織が成立していたと思われます。

舞の中では、子どもが真剣の刃を握って舞う「踏剱」や、舞庭で酒を飲みながら舞う「御酔舞」、南九州でしか見られない、竪杵（たてぎね）と箕を使用した「箕剱」などがあります。

祓川神楽（はらいがわかぐら）（国指定重要無形民俗文化財）

祓川神楽は、霧島東神社の氏子が、霧島山の神に舞を奉納する最も重要な行事です。舞の中には、宮崎県北部の神楽にある「宿借り神事」にも通ずる「門境」をはじめ、天神七代地祇五代になぞらえた12人が約1時間にわたって勇壮に舞う「十二人剱」などがあります。また、「浜下り」では、神楽宿の女性に「天照大神」という役割を与えるなど、女性祭祀の名残が見られます。

B 御池野鳥の森

（高原町HP）

Q 耳をすまして自然の音を聞き分けてみよう。

静かな御池湖畔では、さまざまな自然の音を拾うことができます。手始めに野鳥の鳴き声に注目するのがやりやすいでしょう。見つけた野鳥の種類（名前）を答えさせるのは難しくても、鳴き声の種類（数）なら野鳥に詳しくなくても誰でも数えることができます。このような聞き分けを入り口に自然観察を深めていくのも手です。四季を通して訪れると、季節によって違う鳥を観察することができます。

注意！ 自然をじっくり観察する際は静かに集中すること。みんなで話し合う時とのメリハリをつけると集団で自然観察をしやすくなります。

最初は昆虫や野鳥に近づいて逃げられることがあるでしょう。こういう経験を通じて、野生生物との距離感を考えさせてみるのもいいかもしれない。子育て中の動物の巣には近づかないことや、ヤマビルへの注意喚起もしておくと良いでしょう。

Q 御池にはどれくらいの種類の木が生えているのかな。葉っぱを調べて数えてみよう。

御池野鳥の森は115haにカシ類、タブ、イスノキ等が深い森をつくっています。樹木の見分けやその種類の特定は難しいが、落ち葉の形の違いなら誰でも調べることができます。葉っぱの外形的特徴を観察させて、分類を促すと良いでしょう。樹皮や木の形も観察してみましょう。

まとめの際に手元に図鑑があれば、主要な樹木の種類を確認することができます。

注意！ 御池野鳥の森は基本的に常緑広葉樹（照葉樹）が広がります。落葉広葉樹は少ないです。標高が高くなると、生えている樹木の種類はがらりと変わるので、ここで見られる樹木だけが霧島山の代表種というわけではないことには注意が必要。次は御池以外の場所で葉っぱを調べてみると、まったく違う種類に出会えるはずです。

C 御池

（みやざき観光ナビ）

Q 御池は火山なのに山になっていないのはなぜだろう？

普通、火山と言えば湖の奥にそびえる二子石や高千穂峰のような山をイメージしますが、御池は山にはなっていません。噴火で山をつくるには、火口の近くに多量の噴出物を一気に積もらせる必要があります。すなわち、御池では噴火が激しすぎて噴出物が火口から遠方に運ばれたため、火口の近くに噴出物が十分にたまりませんでした。

近年の霧島山で最も大きな噴火だった2011年の新燃岳噴火も同じく遠方に噴出物を拡散するタイプの噴火だったので、山が急成長することはありませんでした。

目の前に広がる静かな池が実は火山の火口だということをイメージしてもらうことも重要です。湖を取り囲む切り立った崖は火口の壁にあたります（所々、崩れています）。

注意！ 御池の噴火は山をつくりませんでしたが、火口の周囲には分厚い噴出物が堆積していることには注意が必要です。御池野鳥の森の中でその地層を観察できます。

Q 御池から水を取っているところを探してみよう。

御池の北東側に水門があります。キャンプ場側からアクセスが可能。そこで取水された水は高崎川を通じて都城市の谷川堰で取水されて農業（水田）に活用されています。

御池の湖水が汚れると、下流の水も汚れることになります。それは人の暮らしを脅かすことにつながります。霧島山の自然環境や水資源を守っていくことの大切さをここで実感してもらうのも手です。

注意！ 遊歩道から外れないよう気をつけましょう。

大規模噴火…その時、人は

この静かな池が、霧島山の歴史の中で最大規模の噴火を起こしたということのギャップは興味深いでしょう。御池の近くにある小池もおおよそ同時期の噴火でできたと考えられています。

御池の噴火は今から約4600年前（縄文時代）のことなので、霧島山周辺には既に人が暮らしていました（当時の遺跡も多数出ています）。当時の人の立場に立って、噴火を考えてみるとどうでしょうか。

役立つサイト等

- 高千穂河原ビジターセンター https://takachiho-visitorcenter.org/
- 御池青少年自然の家 https://www.miike-msgsi.jp/profile/